



「短歌のまち もりおか」推進事業十周年記念

啄木のふるさと

『もりおかの短歌^{うた}』作品集



◆主催◆ 盛岡市・盛岡商工会議所
◆共催◆ (公財)盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館・
(公財)盛岡観光コンベンション協会

啄木のふるさと『もりおかの短歌』 十周年について

近代短歌に新しい世界を切り拓いた石川啄木。啄木が生まれ育った岩手県盛岡市を訪れる観光客や市民による短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進しています。『もりおか』で感じたこと・見つけたこと等を二行書きの短歌で自由に表現した作品を募集しています。

平成二十年「夏の部」から開始し、平成三十年「春の部」をもって十周年となり（夏・秋・冬・春・四つの部で一年間）、これまでに延べ三千四百名から八千首にのぼる短歌の投稿をいただきました。

これを記念して、これまでの年間最優秀賞の中から「十周年記念特別賞」二首を選定しました。また、特別賞二首を含む歴代入賞作品二十首を本冊子に掲載しています。

風情あふれる『啄木のふるさと』『もりおかの短歌』作品をお楽しみください。今後またたくさんのご応募をお待ちしています（作品募集要項は裏表紙にあります）。

「もりおかの短歌」 十周年記念 特別賞 二首

◆ 第六回（平成二十六年） 最優秀賞

夏の部

群舞する

もりおか 盛岡さんさ夏の夜

響け轟け天の川まで

【受賞者からのコメント】

岩手県盛岡市 昆野 寛顕

この度の年間賞では、途方もないご褒美に与りましたことに、心からお礼と感謝を申し上げます。私の「盛岡さんさ」が、天の川までとどいたのかと思うと、とても嬉しく、そして有り難く感じています。これから「啄木のふるさと盛岡」探しを短歌い続けていきたいと思っています。

◆ 第八回（平成二十八年） 最優秀賞

秋の部

いつの日も凜と聳ゆる岩手山

めげずに生きよと

鼓舞する如く

【受賞者からのコメント】

青森県青森市 鈴木 操

このたびは思いがけず賞を頂くことが出来、大変光栄に思うと同時に、今までの人生において一番苦しかった頃の事を、素直に表現しての受賞ですので、殊の外嬉しい思いをしております。選を担当された先生方やスタッフの皆様にも深くお礼申し上げます。

「もりおかの短歌」 歴代年間最優秀賞 八首

◆ 第一回（平成二十一年）

春の部

車椅子押して

石割桜観る

白寿の父の目線に合わせ

【受賞者からのコメント】

東京都江東区 藤村 清彦

このたびは、過分のご評価を戴き、光栄に存じております。今回の受賞作は、そのまま父の願望もそうだろうと詠んだものです。次なる願いは在宅のまま100歳を迎え、外出は不能でも「お八幡さん」のドンドンコというお祭り太鼓を聴くことでしたが、その父も7月に他界いたしました。介護のため盛岡に滞在しておりました私も、ふるさと盛岡の久しぶりの風物と人情に癒されることしきりです。

◆ 第三回（平成二十三年）

春の部

沿岸に幸よ来たれと

願ひこめ

峰の雪形驚飛び立ちぬ

【受賞者からのコメント】

岩手県滝沢市 小田 佐枝子

学校の授業で習っただけの私がこのような賞に選ばれてとても光栄に思います。東日本大震災では、私の友人も津波で家を失いました。被災地の一日も早い復興と、被災された方々の幸を願って作りました。

◆ 第二回（平成二十二年）

春の部

言の葉のやさしきひびき

停車場の啄木思う

盛岡の旅

【受賞者からのコメント】

東京都新宿区 松下 洋子

初めての盛岡でしたが、人々の優しい話し方が印象的でした。そして中学生の頃習った啄木の歌を思い出しました。ホテルのロビーにあった応募用紙に誘われ作ってみました。今まで短歌を作ったことはほとんどなく、ましてや投稿したのは初めての経験でした。それが、このような賞に選ばれ、ただただ驚いております。有難うございました。

◆ 第四回（平成二十四年）

春の部

もりおかに集う

みちのく六魂祭

栃の花降りパレード進む

【受賞者からのコメント】

東京都江東区 藤村 清彦

このたびは、はからずも再びの年間グランプリ受賞のお知らせを頂き、有難うございました。初受賞を喜んでくれた父も没した盛岡は、疎遠になると思いきや風土と人情にほだされて、前にもまして帰省の機会を逃せなくなりました。再受賞とは光栄の至り、良い墓前報告になりました。

◆ 第五回（平成二十五年）

春の部

やはらかな雅楽の調べ
聞く如く盛岡弁を
耳に留めぬ

【受賞者からのコメント】 埼玉県北葛飾郡 小野寺 史子

この度は拙歌に思いがけず大きな賞を頂き、感激未だ覚めやらぬといったところです。天にも上る気持ちとはこのようなことを言うのでしょうか。趣味として細々と続けて来た短歌ですが、これを励みとしさらに精進して参りたいと存じます。

◆ 第九回（平成二十九年）

夏の部

啄木の生まれし寺の八畳間
座れば夏の
草の香通る

【受賞者からのコメント】 岩手県盛岡市 岩館 公子

常光寺を訪ねた夏の日。幼い啄木が育まれたであろう草の香を、風が運んできました。ユートランド姫神からこの寺を経て、藪川へ辿るコースが好きです。春の山桜、外山蕎麦、短角牛の焼肉。美しいふるさどです。

◆ 第七回（平成二十七年）

春の部

啄木の歌に惹かれし少年が
老いて尋ねる
もりおかの町

【受賞者からのコメント】 長崎県大村市 鈴木 言義

この度は思いがけなく拙歌が、『もりおかの短歌』の年間最優秀賞に選ばれ、戸惑いを覚えながらも、素直に嬉しく思いました。これも偏に十代の頃から石川啄木の歌への憧れがあつたからだ、と、啄木への感謝を込めて、本当にありがとうございました。

「啄木の生地」に寄りて詠みし歌 肥前のわが家に 朗報届く

◆ 第十回（平成三十年）

夏の部

やはらかに
夏の名残りの雨がふる
鬼が手形を押したる石に

【受賞者からのコメント】 青森県八戸市 木立 徹

岩手県名の伝説である三ツ石神社の苔むした石。かつて訪れた時は、思ったより大きな石だと感じました。その昔、鬼が悪さをしない約束として手形を押したと言われるその石に、夏の名残の雨が降っていました。昨年の年間優秀賞に続く受賞を感謝申し上げます。

「もりおかの短歌」 歴代年間優秀賞 二十首

◆ 第一回 (平成二十一年)

夏の部

「どこから来た」「もう帰るのか」
啄木の部屋に長居し
彼の声きく

京都府京都市 小坂 純一郎

春の部

「石をもて追はるるこく…」
リストラの我が身重ねて
記念館観る

茨城県かすみがうら市 石井 明

◆ 第五回 (平成二十五年)

秋の部

緻密なる南部鉄瓶もんようの
指の動きの
点の確かさ

茨城県高萩市 大高 正男

秋の部

日溜りの如き貴方に付いて来て
盛岡の冬
五十回越す

岩手県盛岡市 鈴木 操

◆ 第二回 (平成二十二年)

夏の部

やわらかき稲穂の風が
啄木の
母校の風を吹きわたりゆく

茨城県久慈郡 高梨 とし

秋の部

姫神は
入り日に紅葉照り映えて
雪降る前の華やきを見す

宮城県仙台市 沼沢 修

◆ 第六回 (平成二十六年)

夏の部

まっしろ、ブラウスみたいな
風の吹く
もりおかはもう夏の気分だ

神奈川県鎌倉市 大西 久美子

春の部

桜咲く十六羅漢公園に
花見のごとし
羅漢の円座

岩手県盛岡市 小等原 敏夫

◆ 第三回 (平成二十三年)

夏の部

烈しさもまた美しき
夏の夜に
五色の帯の散れる輪踊り

静岡県静岡市 山下 奈美

春の部

杜の街
石も流れも肅々と
影を濃くして冬を迎える

神奈川県横浜市 森木 康一

◆ 第七回 (平成二十七年)

秋の部

みちのくに
鮭廻りくる街ありて
擬宝珠にもたれそを見てあたり

東京都江東区 藤村 清彦

秋の部

冷麺の器の中の
果物が梨にかわりて
盛岡の秋

岩手県盛岡市 小池沢 和志

◆ 第四回 (平成二十四年)

夏の部

ふるさとや
えくぼの友を偲びつ
杜のみやこの舟こそ流し

東京都新宿区 佐藤 慶子

春の部

「盛岡さよくおでんした」と迎えらる
魂に沁みる
さんこの響

東京都江戸川区 佐藤 春夫

◆ 第八回 (平成二十八年)

夏の部

風鈴が迎えてくれし
啄木の青春刻む
盛岡の街

岩手県盛岡市 河野 康夫

秋の部

啄木がころ吸われし青空を
探してのぼる
城あとの坂

岩手県滝沢市 澤内 イツ

◆ 第九回 (平成二十九年)

夏の部

ふるさとの
石割さくら君に見せ
町中の寺へ納骨に行く

福岡県福岡市 六月朔日 光

冬の部

報恩寺の
五百羅漢に紛れ込み
知らぬ顔する節分の鬼

青森県八戸市 木立 徹

◆ 第十回 (平成三十年)

秋の部

与の字橋 鮭は来たかと見下ろせば
隣にひとり
またもうひとり

岩手県盛岡市 小地沢 和志

春の部

若き日に妻とあるいた
城あとは
緑の日さしいまも変らず

岩手県花巻市 藤原 道正



石川 啄木 (本名: 石川 一)

岩手県盛岡市(旧洪民村)出身の詩人・歌人

明治38年「啄木」の名で詩集「あこがれ」を刊行。明治43年、処女歌集「一握の砂」を刊行。3行の分かち書きのスタイルは、これまでの短歌の常識を変える画期的なものであった。生活派歌人として評価されるが、貧困と病のため、故郷へ戻ることなく26歳で永眠した。



上記歌碑の詳細はこちらをご覧ください(写真付)

盛岡観光情報HPへ (http://www.odette.or.jp/?page_id=1761)
提供:盛岡市観光文化交流センター(プラザおでつ)

盛岡市玉山地区の歌碑マップはこちらをご覧ください

盛岡商工会議所HPへ (http://www.ccimorioka.or.jp/cgi/news/news_shosai.cgi?sno=665)



啄木のふるさと『もりおかの短歌』 作品募集要項

1. 応募期間

1年を4つの期間に分け募集する。

夏の部 6月1日～8月31日

秋の部 9月1日～11月30日

冬の部 12月1日～2月末日

春の部 3月1日～5月31日

みなさまからの
投稿を
お待ちしております

2. 題材と形式

盛岡を題材とし、形式は啄木が詩集『一握の砂』『悲しき玩具』で用いた三行書きとする。

3. 応募方法

指定の投稿用紙を、盛岡市内に設置している「もりおかの短歌ボックス」に投函するか、盛岡商工会議所まで郵送する。

4. 賞と応募資格

〈一般部門〉 応募資格は問わない。

各期間の優秀賞を10首選定し、副賞として盛岡ブランド認証品を進呈する。また、その中から年間最優秀賞を1首、年間優秀賞を2首、年間奨励賞を2首選定し、記念の盾を進呈する。

なお、これらの年間賞に該当した作品は毎年8月に開催される短歌甲子園で発表するほか、盛岡商工会議所の広報誌、HP等に掲載する。

〈ジュニア部門〉 応募時、中学生以下に限る。

各期間の優秀賞を3首選定し、副賞として盛岡ブランド認証品を進呈する。

※両部門、優秀賞に該当する作品が無いと判断する場合がある。

5. 選定方法

盛岡商工会議所が委嘱した選者（岩手県歌人クラブほか）による選考委員会にて賞を選定する。

6. 発表

盛岡商工会議所広報誌、HPに掲載し、発表する。

7. 注意事項

応募作品は返却しない。

応募作品の発表と展示に関する権利は盛岡商工会議所に帰属する。

未発表の自作の短歌に限る。

※氏名や年齢を詐称すると受賞を取り消す場合があります。

※応募の際にいただいた個人情報は、短歌のまちもりおか推進事業の管理運営のみに使用いたします。

投稿用紙・詳しい情報はこちら

過去の受賞作品はこちら



<http://www.ccimorioka.or.jp/takuboku/naiyou.html>



<http://www.ccimorioka.or.jp/takuboku/>

もりおかの短歌 で検索!!

盛岡商工会議所 HP

発行: 盛岡商工会議所

岩手県盛岡市清水町14-12
TEL 019-624-5880

令和元年
8月